⑲緊急事態宣言とラグビースクール活動

2021 年 3 月 21 日

前回こちらのコラムを発信してから凡そ 2 か月半が過ぎてしまいました。ラグビーは高校ラグビー、大学の準決勝、決勝でお正月明けのイベント以降はちょっとこちらのコラムをさぼってしまい申し訳ありませんでした。2 月中旬からトップリーグも始まり、ラグビーのシーズンが継続していることもコロナ禍とは云え、新しい気分ですね。

さて、本日はこの 1 月から緊急事態宣言が東京都、神奈川県を含め 10 都府県で発令されたことを受けて、我々ラグビースクールの活動を含めどのように振舞うべきか、と云うことを含めてちょっと考えてみたいと思います。

前回の緊急事態宣言が 4 月初旬に発令され、5 月下旬に緊急事態宣言が終了いたしました。今回の緊急事態宣言は、2021 年 1 月 7 日に発令され、3 月 21 日に終了いたしました。最初の緊急事態宣言が 6 週間余りで終了したのに対して、今回の緊急事態宣言は 11 週間余りに及ぶものでありました。

こうした緊急事態宣言の下、麻生 RS では 2 月の中旬より練習を再開いたしました。スクール内でもいろいろな意見もあり、「緊急事態宣言の中では何が起こるかわからない」、「一方で学校の部活動は対外試合の禁止であるものの、練習については制約を設けていない」とか、「同じ地域スポーツ活動の少年野球やサッカーはどうして練習ができるのか」など、以前の緊急事態宣言下ではなかなか意見が出てこなかったが、いろいろと経験してこうした意見も出るようになってきていた。

当スクールの幹部の皆さんも大変悩まれたことと思いますが、感染対策を徹底した中での練習再開についてはひとつ今後を占う上で重要な決断をされたのではないか、と思います。

麻生 RS では昨年 3 月の新型コロナ感染拡大からスクール生、保護者、コーチの皆さんも幸い感染者が出ておりません。これはやはり感染防止策を徹底し、スクール全体で普段でも節度を保った生活をされていることなどが功を奏していると思います。スクール生全体で 150 名余りの生徒をかかえ、120 余世帯の方々、80 名近くのコーチ陣がみな感染しなかった、ということはそういうことだと大変嬉しく思っています。こうした状況でも「安心・安全」に練習を継続する為には、保護者の皆さんの協力とスクール生を含めた関係者の自覚が極めて重要です。今後も皆さんのご理解、ご協力の上でこそ実践できると思っております。

この冬の緊急事態宣言が明け、また今年の春から夏にかけてワクチン接種も予定されており、これまでコロナ禍で些か縮こまった気持ちが緩む局面でもあります。しかしながら、既にご承知のとおり感染者数は根絶した訳でもなく、決して油断を許す状況でもありません。でも、ラグビーを愛する皆さんの気持ちも非常に重要だと思います。引き続き麻生 RS では、感染対策を徹底させた上で練習を継続したいと思っています。

今週末は麻生 RS 6 年生の卒業式です。6 年生はこの 1 年間当スクールの最高学年として全学年のお兄さん格として練習に、試合に専心してくれました。今後もラグビーを継続する生徒さんが多いと伺いますが、麻生 RS での経験を糧に中学校でも活躍を期待したいです。